

「坂東市地域利便施設 基本計画」の概要



1 計画の目的

(1) 本計画の目的

首都圏中央連絡自動車道（以下「圏央道」という。）は、平成29年2月に茨城県内区間において全線が開通し、その後、予想をはるかに上回る交通量が確認されたことなどから、現在、4車線化整備が道路事業者により進められている。

また、圏央道には、休憩施設が少ないことから4車線化の整備と併せて（仮称）坂東パーキングエリアの整備も進められている。

本市においては、地域活性化を目的に、（仮称）坂東パーキングエリアと連結可能な施設整備の検討を進めている。今後も引き続き、地域住民等の利便性向上を目指す施設として具体的な検討を推進するため、本計画により整備に関する基本的な方向性を定める。

(2) 計画地



2 コンセプト及び整備方針

(1) 整備の方向性及びコンセプト

<現状の課題>

- 生活環境の改善
- 公共交通ネットワークの形成
- 緊急時に誰もが安心できる場の提供
- 本市や茨城県の魅力を発信する場の創出

<計画地のポテンシャル>

- OPAに隣接
- 防災拠点としてのポテンシャル

<整備の方向性>

市内外から人を呼び込む、情報発信、防災、休憩機能を備えた施設整備の実現

<コンセプト>

緑あふれる“まさかどの郷”坂東
～ 桜咲き風薫るやすらぎの交流拠点 ～

(2) 整備方針

- ①坂東市の魅力を市内外に発信する拠点
- ②災害に対して迅速な対応が可能な拠点
- ③訪れた人に快適と楽しさを与える拠点

(3) 導入機能

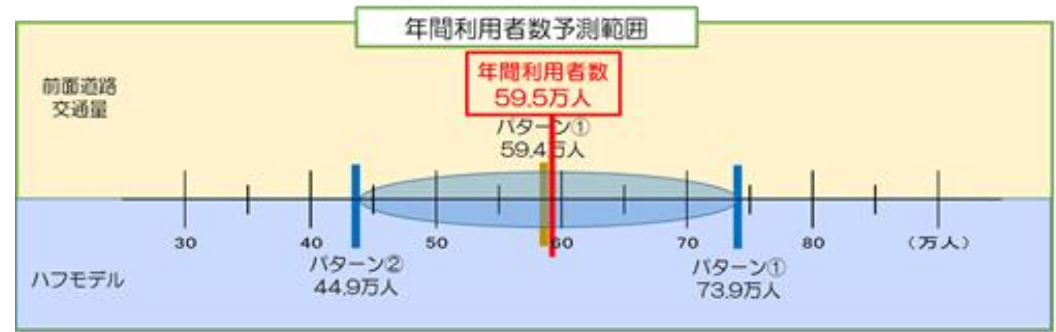
- ①情報発信機能
- ②防災機能
- ③休憩機能
- ④地域連携機能
- ⑤交通結節点機能
- ⑥観光拠点機能
- ⑦その他機能

3 市場動向

年間利用者数の推計

前面道路の交通量を基にした年間利用者数の推計、ハフモデルによる年間利用者数の推計から地域利便施設の年間利用者数は約45万人～74万人の範囲と予測されるため、三つの推計値の平均をとり、年間利用者数を**59.5万人**と設定する。

ハフモデル：想定される商圈から、消費者が対象施設に訪れる確率を基に利用者数を推計する手法。新規出店時の需要予測などに多く利用される。



4 施設規模の算定

(1) 計画駐車台数の算定

駐車台数

圏央道第2駐車場

市道側駐車場

250台程度

対象車種：小型車（障害者用含む）・大型車

(2) 導入施設規模の算定

機能	床面積(㎡)
① 休憩機能	664
② 情報発信機能	休憩機能に含む
③ 地域連携機能	1,468
計	2,132

施設規模：1,900㎡～2,400㎡

5 施設配置計画

ゾーニング

ゾーニングの特徴
にぎわい・交流ゾーンを広く整備する
ゾーニングを採用



※スマートICについては別途検討中